

登山月報

JMSCA 登山月報 第658号 令和6年1月15日発行



「残雪期の谷川岳、肩の小屋からの主脈縦走路」写真撮影(一社)群馬県山岳・スポーツクライミング連盟 理事(高崎山岳会)清水知樹



新年のご挨拶	2
令和5年度安全登山指導者研修会(西部地区)報告	3
動きだした上級夏山リーダー制度	6
次世代選手 SKIMO 体験会	7
減遭難活動・登山届提出の促進に向けて	8
Enjoy Climbing	9
大阪府山岳連盟自然環境委員会のSDGsな活動	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば	12

新春号 No.658

新年のご挨拶

会長 丸 誠一郎



全国の登山愛好者の皆様、クライマーの皆様、SKIMOの皆様、明けましておめでとうございます。JMCSAを代表致しまして、一言、新年のご挨拶をさせていただきます。

JMSCAは、登山月報でも報告しました通り、2023年3月期におきまして、大きな事業損失を出しました。そして、昨年6月の総会以降、三つの大きな改善試み、後ほど述べますように、この7か月間、抜本的な体質改善を実現してまいりました。今日用意しましたこの「Survival from Hell」にお示しました通り、2024年の活動における、JMCSAスローガンを、次のようにお約束させていただきます。

JMSCA 2024

Stay Liquid 常に動きます	No Devaluation 非難せず代替案
Respect for Human Rights 社会的人権	Introspection is no success 同じ過ちは敵

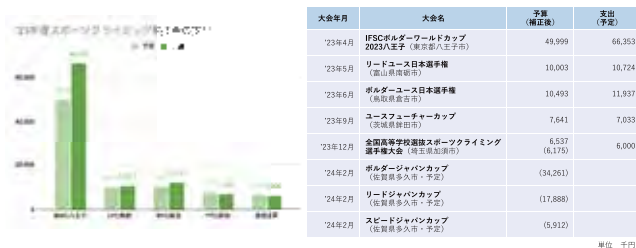
1番目は、Stay Liquid。我々は、登山者であり、アスリートの仲間です。山への情熱、マウンテンスポーツへの情熱を絶やすことなく、前に向かって行動し続けます。止まったら、負けを意味します。常に、登山界、スポーツクライミング競技、SKIMO競技において、世界のリーダーを目指してまいります。

2番目は、No Devaluation。人をさげすむ発言、行動は止めましょう。私をはじめ、我々JMCSAは常に5年後、10年後を見ながら、今は前衛峰に隠れて見えない、その先の山を目指しています。他人の批判をする場合は、同時に必ずその他のルートをお示しして、前向きな議論をしてまいります。

3番目は、社会的人権と倫理観を尊重してまいります。我々は令和5年9月29日にスポーツ庁によって改定されました、ガバナンスコードを重視しております。これには、財務基盤の健全化と同時に、組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保がうたわれています。JMCSA内に再燃する、外部理事、女性理事の批判及び排除、登山、スポーツクライミング、SKIMO相互の差別は、ジェンダー差別、パラアスリートに対する蔑視と同様に、絶対にあってはなりません。

4番目は、「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」。19世紀のドイツの政治家、ビスマルクの名言です。

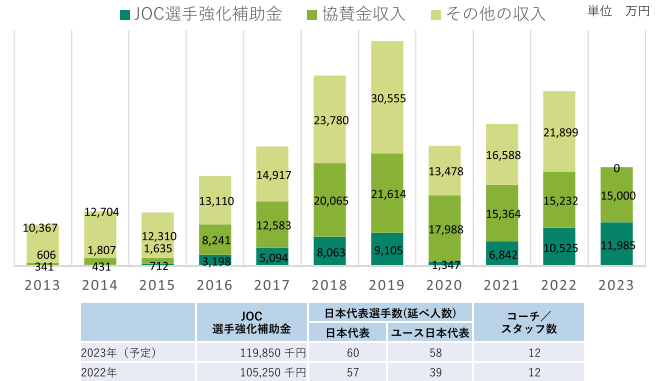
'23年度スポーツクライミング競技会の運営



此処でお示しましたのは、昨年4月以降開催した各競技大会毎の収支決算です。

6月に競技委員長、副委員長の交代を漸く実現し、倉吉市で開催いたしましたBYC(ボルダークラス日本選手権)以降は、昨年まで毎回マイナス収支だった体質に、大きな改善を実現しました。冒頭に申し上げた、1番目の改善です。

協会経常収益とJOC選手強化補助金



	JOC選手強化補助金	日本代表選手数(延べ人数)		コーチ/スタッフ数
		日本代表	ユース日本代表	
2023年(予定)	119,850千円	60	58	12
2022年	105,250千円	57	39	12

此処でお示しましたのは、2023年度と前年度のSC選手強化における収支決算の比較です。11月の臨時総会でお約束したように、昨年7月からSC部、強化委員会、競技委員会、普及委員会、マーケティング委員会、医科学委員会と事務局とのコミュニケーションを大幅に改善し、協賛企業からのサポートが2019年比38%減少する中で、この選手強化の運営に、大きな改善を実現しました。この点が、2番目の改善です。各地の国際大会で選手の活躍については、敢えてここでご説明するまでもございません。

3番目は、販管費の見直しです。出張経費、会議費の管理システムは、国内トップ企業のDXからは、かけ離れています。この点は、現在事務局にて、機構改革を含め、改革の作業中です。JMCSAは、2019年に八王子市での世界選手権大会で犯した失敗を、昨年度、全く別の要因から再び犯しました。失敗を他人事として批判するのではなく、失敗から学ばなくては、私たちの未来はありません。

2024年は、UAAA創立30周年の年であり、パリオリンピックの年であり、コロナ禍以降、4年ぶりに全日本登山大会を開催いたします。まさに大きな飛躍の1年となります。私は、皆様に以下のことをお伝え致します。

1. JMCSA理事は、懸命に働き、正会員への務めを果たします。
2. JMCSA理事は、正しい判断を下し、倫理ある判断を下す力があります。
3. JMCSA理事が職権を乱用すれば、社会の悪となります。
4. JMCSA理事は、仕事に楽しみを見出し、善行を行う組織の一員です。弱きを助け、山を守り、事故者を救い、この仕事に道義的意義を感じています。その事は、大きな喜びをもたらします。
5. JMCSAは「信頼の貯水池」です。この信頼を守ることが我々理事の仕事を成功に導きます。
6. JMCSAは、山の自然を愛し、マウンテンスポーツを愛します。「遭難」とアスリートの「事故」は、我々に無力感を与えます。

JMSCAは、事故のない山登りをつづけるために、正しい判断力を維持し、情熱を絶やさず行動してまいります。

本年も、皆様のご理解と熱いご支援を直しくお願いいたします。

2024年 JMCSA丸会長 新年挨拶

Facebook <https://www.facebook.com/japanclimbing/videos/112269086569465/>

Instagram <https://www.instagram.com/p/C1iAPoPvXk/>

令和5年度安全登山指導者研修会（西部地区）報告

11月10日（金）～12日（日）の日程で令和5年度西部地区安全登山指導者研修会を開催した。西日本を中心に20歳代から70歳代の22名（男性15名、女性7名）の参加者を迎え、奈良市立青少年野外活動センターを研修会場とし、奈良市東部の柳生の里にほど近い里山を実技研修コースに選定した。

【第1日目：11月10日（金）】開講式・講義Ⅰ～Ⅳ

9時頃から県内の運営スタッフが順次集合し、会場設営を行った。また、食堂営業がない施設であるため食事は自炊か配達に頼らねばならず、まずは炊飯から開始した。11時頃からは受付準備も整い、国立登山研修所から米山所長、和田専門職員、JMSCAから蛭田副会長、古賀登山部長、また、北村、河合の両研修講師も到着され、研修会全体の打ち合わせを行った。参加者は12時頃から野外活動センターの食堂で昼食をとり、12：45から開講式を開催した。

開講式は国立登山研修所の米山所長、JMSCAの蛭田副会長、主管する奈良県山岳連盟の藤本会長からそれぞれ挨拶をいただいた。つぎに、研修会講師の北村、河合の講師紹介を行い、13：00から講義を開始した。

講義Ⅰ「登山のPDCA」 北村憲彦講師

登山を計画実行する際はPDCAサイクルを利用して安全登山を実践する。P（Plan計画）→D（Do実行）→C（Check評価）→A（Act修正）→P…。登山の際の活用例は、①先読み（Plan）→②ルート維持（Do地図に従って移動する）→③現在地確認（Check特徴物で現在地を把握）→④修正（Actチェックポイント再設定）→先読み…のような流れになる。

PDCAサイクルを活用した安全登山の指導をする際には次のようなことを意識すること。登山客ではなく、自律した登山者を育てる。仲間と自分を守るために徹底的にプランニングを検討し、いくつもの代替案を立案する。PDCAサイクルを常に回しながら登山をする。

講義Ⅱ「読図とナビゲーション」

—道迷い遭難を考える、遭難防止の方法は？—

河合芳尚講師

道迷いが起きる原因には、登山計画を立てるとき事前の準備や調査不足、途中で計画を変更している。出発時間が遅くなった、通行止めの案内や赤テープの現地情報の無視や見落としをした、登山の途中でチームが分離してしまった、電池切れなどで地図アプリが使えなくなっ

た、などが考えられる。道迷いの防止キーワードは体力、冷静、技術である。

実際の道迷いの事例では、計画変更、パーティーの分離、気象条件の悪化、事前調査不足などにより遭難に至る事例があった。冷静になって、コンパス、地図、地図アプリなどを利用した的確な判断をすることが重要である。



河合講師の講義の様子

講義Ⅲ「ルートプランニングの指導」 河合芳尚講師

現在まで遭難者数は増加の一途だが、遭難による死者・行方不明者の数は横ばいで推移している。これは、携帯電話により簡単に救助要請ができるためと考えられる。現在位置がわかり進む方向がわかれば、道に迷うことはない。しかし、多くの登山者が携帯電話を持ち地図アプリを使用して現在位置を確認しながら、道迷いが発生している。これは、地図アプリを使えていないためではないか。

いろいろな地図アプリのなかで、YAMAPとヤマレコが推奨できる。YAMAPの特徴、ヤマレコの特徴の説明があり、地図アプリは登山の際有効で、使って有効性を確認する。紙地図も必要で特徴物等を書いて持参すること。他人のデータをうのみにせず自分のペースに置き換えて考える。家族等にはこまめに現在位置を連絡すること。アプリの山行計画は登山計画ではない。アプリを使って安全登山を心がけること。

講義Ⅳ「危急時への備え（リスクマネージメント）」

北村憲彦講師

山岳遭難は増えている。登山は観光旅行ではない。危険を内在した野外スポーツである。そして、独特な運動で生活も伴っている。遭難事故を回避するためには、登山客から自立した登山者へ、連れて行ってもらう登山から考える登山へと意識を変えていくことが重要である。

安全に登山を行うには、登山におけるリスクマネージ

メントを考える。リスクの理解と合意、リスクのコントロール、ダメージのコントロール。これらをまとめて登山のプランニングを行う。

【第2日目：11月11日（土）】実技研修

実技研修Ⅰ

河合芳尚講師

野外活動センターのグラウンドに集合して、コンパスの使い方の説明を受けて練習を行った。コンパス1-2-3（ワン・ツー・スリー）による目的地への到着方法である。最初の位置に目印を置き、コンパスを使い三角形の辺に沿いに方向を定めて5歩歩いて最初の位置に戻る練習である。参考資料には三角形、四角形、五角形、六角形があり、参加者は各々練習してコンパスの使い方を確認した。ある程度の広さがあればどこでも実施できる実践的な練習であり、初心者への指導場面での活用が期待できるものであった。



コンパス1-2-3を練習中

実技研修Ⅱ「ナビゲーションの実践」

北村憲彦講師、河合芳尚講師、奈良県山岳連盟から看護師1名を含む11名の実技講師とスタッフが4つの班ごとの班長、サポートをおこない、和田専門職、蛭田副会長も山へ同行された。コースの大半が車両で進入できることと、岳連所有の無線で状況が逐一把握できることから野外活動センターの本部には若干名の待機にとどめた。米山所長は本部車両にて、研修中の各班の様子を要所で視察された。

この日の天気は、寒冷前線が通過した後で冬型の気圧配置が強まり、近畿地方に木枯らし1号が発表されるなど、今年一番の冷え込みと北西の強風にさらされた。日照は安定しており、陽向ではぽかぽか陽気で、ウェアリングの選択が難しい状況であった。

今回のコースは標高差も300m程度しかない里山で前半1/3は農村地帯の自然歩道を使用している。また後半もほとんど使用されていない林道で登山としては面白みに欠ける。その分コースは10km超で、河合講師が事前に設定されたポイントは81カ所にも及ぶ。そこでコンパスを用いてのナビゲーションを指向するポイ

ントと地形を読み取る読図ポイントとに課題を明瞭化させた。展望のきく農村部ではコンパスナビゲーション主体、山中では地形読み主体となる。さらに1・3班を対象にしたポイントと2・4班を対象にしたポイント、すべての班が確認すべきポイントに区分をした。これは時間短縮のためだけではなく、ポイントで複数の班が固まってしまう地図を見なくてもポイントとわかってしまうことを防ぐためでもあった。

実際の登山でも入山口が見当たらずに難渋したり、分岐を見落としていきすぎてしまうといったことが起こりがちである。今回はまさにそれが起こりそうなルート設定であった。

*

北村、河合両講師から地図にあるポイントと、地図の等高線の形状と実際の地形の確認方法等について説明を受けて、参加者は4班に分かれ班長とともに班ごとにそれぞれ行動を開始した。班ごとにチェックポイントの位置が実際の地形のどこに当たるのか、参加者が一人で判断し、それをみんなで話し合いながら確認した。特徴のある地形のところでは、地図上のチェックポイントを実際の登山道で指摘することが容易であるが、判断が難しいところもあった。2時半過ぎにはすべての班が無事帰着した。コンパスによる進路と地図による地形の確認の訓練ができ有意義な登山となった。



実技研修出発前の集合写真

実技研修Ⅲ「実技研修の振り返り」

休憩の後、さっそく各班ごとに本日の実技研修の振り返りをおこない、ナビゲーション技術の確認やわかりにくかったところの復習をおこなった。通常の登山であれば下山したらお疲れさんで終わってしまうところを、きちんと総括するくせが付けば今後の登山がひと味変わってくると思われる。

実技研修Ⅳ「危急時対策の実践」

石田達也講師

夕刻、グラウンドにて各班単位で集合して、奈良県山岳連盟遭難対策委員長である石田達也講師を中心に危急時対策の実践研修をおこなった。いかに読図能力を高

めても山では不慮の事故が起こりえるものであり、指導者はそのような場面を想定して備えることは当然である。また、それぞれの経験からお互いに工夫点を出し合い、より安全な登山行動がのぞまれる。今回は要項の装備の中に非常用装備一式、ビバーク用装備一式という項目を付け加え、研修参加者が普段どのような危急時対策を意識しているのか確認することも企図とした。ツェルトひとつとってもサイズや携行方法、付帯して準備する細引きなど、それぞれの実践の中からより有為な方法を検討した。使用法についても周囲の地物の活用など、必要な場面で躊躇せず可以使用できるように様々な例を紹介し、実習した。

秋の日はつるべ落としてだんだんと周囲が暗くなり見えづらくなっていく。これも研修の企図の一つで、暗くなるといかに行動が困難になるか、逆算していつの時点でビバークを判断して準備に移るべきかを身をもって体験できた。



それぞれ工夫してツェルトを張る

入浴、18:30より夕食に接着して情報交換会を行った。全員の参加を得て和やかに会を進めることができた。ここ数年、感染症対策で制限されていたことが緩和され、低山とはいえ一日の行動をねぎらう楽しい会食を催すことができた。参加者がそれぞれに語らい、いろいろな立場の参加者からも貴重な話を伺い、親交を深めることができ意義な時間であった。

【3日目11月12日(日)】研究協議、閉講式

実技研修Ⅳの振り返り

前日の夕方は入浴等の時間が立て込みできなかった振り返りを、研究討議の前におこなった。ツェルトの危急時に至る前の積極的な活用や、それぞれの非常食や応急装備の工夫点など興味深い意見交換が見られた。

研究討議 北村憲彦講師、河合芳尚講師

「安全登山の指導者を目指して—ルートプランニングの指導—」

はじめに平成29年3月に発生した那須雪崩事故の概要が説明され、原因と対策について研修した。

つづいてグループワークとして、所与の条件設定をも

とに、想定ルート上の枢要なポイントを各自で検討し班ごとに討議をおこない、登山をする際のリスクアセスメント、リスクマネジメント、発生したリスクへの対処、危険を減らすための緊急対応等について各班ごとに話し合い、議論を深めた。その際にはまとめシートに順次書き込まれていき、一連の流れが可視化できるものとなった。

*

研修会の全過程が終了して、研修生に3日間の研修を振り返って今後の参考にすべくアンケートに答えていただいた。アンケート終了後閉講式を行い、研修生には国立登山研修所米山所長より修了証書が授与された。米山所長、JMSCA古賀登山部長、藤本会長、来年度の研修会主管の高知県山岳連盟の山中一睦様より挨拶があり、閉講式を終了した。

本研修会は平成元年11月に発生した中高年の大量遭難事故を契機に始められ、その後対象を中高年のみならず登山者全体の安全登山指導者の育成に拡大された。多くの参加者に安全登山への学びを深めてもらえるように各都道府県を巡回して続けられている。今回は22名の参加者に対して21名の役員・講師・スタッフが対応しており、充実した研修が期待できる。来年度以降も多くの方の研修の機会となれば幸いである。

ご参加いただいた研修生の皆様、研修会を計画された国立登山研修所、日本山岳スポーツクライミング協会の関係者の皆様、それに、運営に協力いただいた奈良県山岳・スポーツクライミング連盟の皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(奈良県山岳連盟 理事長 前田善彦)



動き出した上級夏山リーダー制度

1. 夏山リーダー制度とは

夏山リーダー制度は(基礎編)と(上級編)があります。一般登山者600万人のハイキングリーダーを養成する目的で、約10年を要して築き上げてきました。2022年にUIAAからNatuyama Leader (Advanced)として承認され、欧米の登山リーダー教育と同等の指導レベルであることが証明されました。ここで、夏山リーダー基礎編(JMSCA公認夏山リーダーと呼称)は、パーティメンバーが同等のレベルのメンバーから構成される場合の「取りまとめリーダー」、上級編(UIAA公認上級夏山リーダー)はパーティのメンバーに初心者が含まれる場合の「引率型リーダー」を養成するシステムです。

2. 動き出した上級夏山リーダー

上級夏山リーダーは「引率型」としているように、リーダーとしての対人訓練を主としているため、危険な岩場を通過する場合には、1パーティに4人の構成単位としています。下見を前提としますが、一般的なハイキング道では7人です。岩場での訓練では、初心者を模擬演技者(SP; Specific Patient/Simulated PatientあるいはPerformer)が勤めるため、3人リーダー候補者と1人のSPで1パーティとします。このパーティを指導する講師1人が付き添います。そのため、講師とSPの参加数に依存しますが、受講者の最大許容人数は15人(5パーティ)と非常に僅かな受講者しか受け入れることができません。

上級夏山リーダーの養成講習会を(一社)大阪府山岳連盟指導委員会の主管により11月23日、25、26日に開催しました。初めて受講生を募集したため、まだまだ知名度が低く、また、受講資格がJMSCA夏山リーダー(基礎編)の合格者か、コーチ1以上の資格を持った者であるため受講者4名で実施しました。

3. 主な訓練風景

危険な場所の通過には、ロープ(8mm*30m)+カラビナ+スリングを使用します。もちろんクライミングではなく、怖がっているメンバーを安心させる事が目的で、心的サポートと呼んでいます。この怖がっているメンバーをSPが演じます。写真のように岩場で固まり、悲鳴を上げ、リーダーにしがみつきます。如何にSPを安心させ、落ち着かせて通過させるかが訓練目的となります。

集団ナビゲーションでは、予定ルートで、リーダーに正確なコンパス・ナビゲーションを求めるとともに、SPからクレームやわがまま行為(例;勝手に花の撮影で消える)に対応しなければなりません。また、ガスを想定し作った模擬眼鏡をパーティ全員が装着して歩く場合もあります。途中で安全登山、自然環境保全などの指導も求められます。

セルフレスキューでは、SPの演じる滑落事故を想定し、傷害者が命の危機にあるのか、迅速な評価が求められ、救命処置を行います。また、全身観察を行い、可能な応急処置を施し、警察/消防に救助要請を行います。低体温症への対応訓練では、短時間でツェルトをかぶり、保温を行いながら、状態の悪化が認められる場合は、救助要請を行います。これら一連の模擬訓練には、シミュレーション、ロールプレイ、シンクアラウド(思考発話法)の技術を用いて実施します。

UIAAでは、特に検定の場において、初めての場所で実施し、環境への対応能力を評価するOpen Tasksを推奨し、評価の公平性を厳格にすること、評価において受講者が不利益を生じないようにすることなどを求めています。

講習会・研修会の講師、初心者の登山技術指導を務める方々は、是非参加して頂きたいと願っています。

(UIAA資格委員会 委員長 青山千彰)



次世代選手 SKIMO 体験会

唯一、夏と冬のオリンピック競技を持っているJMSCAだが、2026年のミラノ・コルティナ冬季オリンピック競技に追加となったSKIMO (Ski Mountaineering) は、初めて日本選手権が開催されてから18年。やっと10代、20代の選手が競技に入ってきた。昨年の世界選手権(Boi Tall、スペイン)の大会でも島選手が19位まで来たが、そこに続く選手の確保が課題となっている。

そのため、今回初めてJMSCA主催で次世代を担う選手発掘を目的とする体験会を実施した。

12月9～10日、場所は柵池高原スキー場(長野県小谷村)。30歳以下のSKIMOをしてみたい人という条件で募集をした。募集期間は短かったが、それでも11人の次世代選手から応募があった(インフルエンザ等で4名キャンセルとなり、参加は7名)。参加者の年齢は9～29歳。主に長野で、東京や三重からも集まった。両親が経験したことがある子どもたち、山岳ガイドの子どもたち、そしてその友人など、SKIMO競技を行う環境的ベースはできている子どもたちが多かった。

体験会当日、まずは室内でギアの仕組みを学ぶ座学を行なう。実際にトップモデルのスキーとブーツに触れてもらい、シールの仕組みなどに目を輝かせていたのが印象的だった。

次に行ったのが、SKIMO独特のスキーをザックにつけたまま担ぐテクニック。これはオリンピック種目のSPRINT種目では大切な動作となる。コーチを見本に自分の身長とほぼ同じサイズのスキーを担いで外す練習をした。体が柔らかいこともあり、すんなりクリアしていた。

その後は雪上へ移動しての講習。雪が無い場所ではスキーを担ぎ、雪が出てきたらシール登高を行なった。徒歩では登るのが大変な斜面も、スキーで登れるのが楽しいのか、走ってみたり、シールの登高力に感動したりする様子が見られ、あっという間に300m標高を上げた。

夜はSKIMOの動画を鑑賞した。オリンピック競技のSPRINT種目の動画や、ミリタリーパトロールが起原のロングレースの動画など。ハウツーなど全て英語のアナウ



ンスだが、理解している子どもも多く、トランジット(スキーの脱着テクニック)の速さに「こんなに速いの!？」と目をキラキラさせていた。また、SKIMOの本場であるヨーロッパの景色にも「行ってみたい!」と興味を示していた。

2日目は、昨夜見たSKIMOレースをいよいよ実践し体験してもらった。柵池高原スキー場の上部を使って、急登でジグを切ったり、直登したり。シールの脱着やSKIMOの板で滑ってみたりする。「トランジットは丁寧に」とアドバイスしたが、2日間であっという間にマスターした。

今回、初めての募集ということもあり、本当に興味がある子どもたちが来てくれた。挨拶もしっかりできて、スキーブーツを履く際もサイズが合っている・合っていないなど、細かい意思表示、伝達がはっきりできる、選手として育てたい子どもたちばかりだった。

実際、9歳の参加者が国際大会に出場できるのはまだまだ先だ。しかし、現時点で、中国はU20でヨーロッパの選手を抑えて世界一になっている。直前に中国で行なわれた交流大会(11月30日～12月1日、Wanlong SkiResort、中国)に参加して情報を集めたが、中国は13歳からSKIMO選手の育成をして、6年かけてオリンピックを見据えて育成している。

早すぎることは無い。この後も多くの子どもたちに体験してもらい、選手の育成はもちろん、SKIMOを楽しんでのびのびと育っていく環境を整備して、未来に繋げていきたい。

今回は、SKIMOを経験したことがある人たちの協力があって、多くの子どもたちに体験してもらえたことを感謝していると共に、今後も興味がある子どもたちを支援してもらえるように、活動を続けていきたい。

(日本代表コーチ 堀部倫子)



減遭難活動・登山届提出の促進に向けて

遭難対策委員長 服巻辰則

新型コロナ禍にともない、野外のレクリエーションが見直されて登山やキャンプを楽しむ方が増えてきている。一方、山岳遭難は増え、令和4年度には過去最高の発生件数となった(警察庁)。遭難の様態別としては、道迷い、転倒、滑落の順となっている。

遭難対策委員会では、減遭難活動の一環として、道迷い防止のための登山道標の整備や登山届提出用のポスト設置等の活動に取り組んでいる都府県の活動を支援してきた。

また、警察庁のデータで単独登山者の死者・行方不明者が多いことから、登山届提出を促進する活動も行なっている。

まず、登山届作成のハードルを下げる目的で、JMSCAのHP上の「登山計画書」を「登山届」として割り切ることによって記載項目を簡素化したフォームを掲載した。行方不明時に軌跡の追跡の可能性がある登山アプリのIDの記載欄も設け、情報化社会への対応もしている。なお、新フォーム作成にあたり、警察庁、消防庁、地方の山岳救助隊(警備隊)の意見も伺い、救助サイドからも不足項目がない内容を心掛けた。この新フォームにより、登山届提出率の向上につながることを期待している。

一方、2022年12月にJMSCAを含む山岳四団体(下図参照)が「山岳安全対策ネットワーク協議会」を立ち上げ、2023年4月から登山届共有システムの「山と自然ネットワークコンパス(以下、コンパスと称する)」を共同運営していくこととなった。協議会の目的は、登山届提出率の改善と山岳事故遭難防止等の普及活動として

コンパスは、自治体や警察と協定を結び、登山届をWebやスマホアプリで提出できるシステムである。協定を締結している自治体や警察は登山者がコンパスで提出した登山届を閲覧することが可能であり、遭難発生時の迅速な対応に活用されることが期待される。

登山者側にも、同行者や家族とも情報共有が可能であり、下山予定時刻を過ぎると本人と緊急連絡先に指定した家族等に下山していない旨の通知がされるシステムとなっている。

コンパスは、登山アプリのヤマレコや日本雪崩ネットワークの外部組織とも提携し、登山者の利便性向上を図っている。ヤマレコのWebサイトやアプリで作成した登山計画を、コンパス経由で登山届として提出できるようになっている。日本雪崩ネットワークとの提携では、登山者が雪崩情報の発信地域での登山届をコンパスから提出すると、当該地域の雪崩情報が当日の朝に配信され、登山者のリスク認知向上に寄与している。雪崩情報は、白馬、妙高、かぐら谷川武尊、ニセコ・羊蹄・余市・尻別、立山の地域において、どのような雪崩が、どのような場所に存在し、その程度の誘発可能性があるかなどの情報が含まれている。

保険のJRO(日本山岳救助機構)でもコンパスによる登山届提出を推奨しており、コンパスによる登山届は普及しつつある。

しかし、コンパスの問題点として、全国で通用するものではなく、共同運営を開始した2023年4月時点で32都道府県での提携に留まっている、つまり残りの15府県ではコンパスによる登山届は現地の救助機関は利用ができない。そのため登山者は目的の山岳の所在府県によっては、コンパスの利用適否の判断をする必要があった。



2023年12月時点の
コンパス締結都道府県



- 1 警察庁：令和4年における山岳遭難の概況
https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/r04sangakusouunan_gaikyou.pdf
- 2 山と自然ネットワーク「コンパス」
<https://www.mt-compass.com/>
- 3 日本雪崩ネットワーク「雪崩情報の使い方」
https://snow.nadare.jp/snow/avalanche_information.html

JMACAの協議会への参画を機に、当委員会では地方岳連・協会の協力を得て未提携府県の警察や県庁への働きかけをおこなっている。「当府県には必要ない」と門前払いの県もあったが、本年11月には広島県と岩手県で協定締結に至り、この他、山形県でも協定に向けて調整が進んでおり、その他にも検討いただいている県がある。

しかし、コンパス利用の協定の未締結府県がまだあり、全国でのシームレスな利用に至っていない。今後も締結

拡大に向けて、未締結府県の岳連・協会のご協力をお願いするとともに、協議会の他団体(ガイド協会など)とも連携して活動をしていく予定である。

もちろん我々の目指すところは登山届提出の促進であるので、コンパスに拘らず、従来の紙での登山届、YAMAPなどの他の登山アプリ、自治体独自のシステムなど、それぞれの登山者が使いやすい方法で登山届提出の普及に向けての啓蒙をお願いしたい。

Enjoy Climbing

成田 啓 鈴木雄大 記

令和4年度JMCSA海外登山奨励金(後期)登山隊報告

2023ペルーアウサンガテ遠征 概要報告 連載①

遠征期間 : 2023/4/18-6/10
 山 域 : ペルー クスコ地方 ビルカノタ山群
 メンバー : 鈴木雄大 (au FG、稲門山岳会、札幌北稜クラブ所属/28)
 成田 啓 (北大山の会所属/26)
 ルート : アウサンガテ北壁初登攀「Japonés Directo」
 (ハボネス ディレクト)。
 1100m - 5.10a, WI6 (同時登攀も入れて36p分)

気 候

クスコ地方では、一般的に5月から8月が乾季と言われており、中でも6月と7月が最も登山に適していると考えられている。事実、遠征序盤の4月は、朝は晴れていても午後になると天気が崩れる日が多くあり、5月に入るとその頻度は徐々に減っていった。今回は対象の壁が北面であり(南半球なので北半球で言う南面)、完全に乾季に

なると厳しい日射により壁の氷が消滅してしまうことが予想されたため、あえて遠征時期を一般的な登山適期よりも早めた。結果としてこれは功を奏し、ネット上や文献で見た壁の写真よりも氷が多い状態でトライすることができた。日の当たりにくい南面のルートはこれ以降でも登れると考えられる。

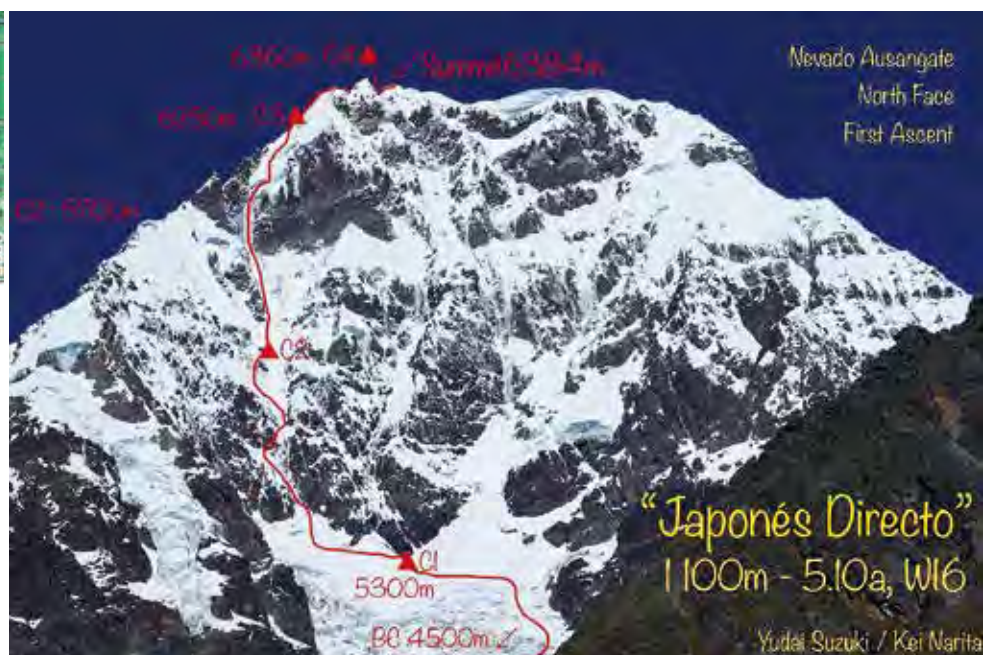
なお、よりメジャーなブランカ山群は、昨年行った成田の感想では乾季の始まりが1か月遅い印象であった。アタック中の気温は、壁基部の5000m台では日中の体感ベースで+25℃、山頂では日の出直前かつ強風だったため、-20℃程に感じられ、強烈な日射による暑さと、日のない時間の寒さに手を焼いた。



<https://tripnote.jp/peru/cusco-climate/photo/171719> より引用



位置図



アウサンガテライン

環境

一言で纏めると、今まで経験したパキスタン・バルトロや、ネパールのエベレスト街道、ネパール未踏峰等と比べ、比較にならない程快適に全ての物事をスムーズかつ快適に進められた。まず、この国では面倒な代理店作業や登山許可、VISAの取得などの必要がないのが大きい。国の交通事情なども安定しており、純粋に登山そのものに集中することができた。

アウサンガテトレイルはユーロ圏などでも認知されているようで、現地住民は登山に対して、非常に前向きにサポートしてくれる。今回は快適なパクチャンタ村をベースとして、アタックまで体制を整えた。この村の標高は約4300m、アウサンガテの氷河までは10km程である。尚、取り付きの氷河末端と、パクチャンタ村の丁度中間にも非常に小さな集落があり、宿泊も可能だったのでここをABCとした。

パクチャンタには、ロッジが10軒ほどあり、1人1泊1000円前後で宿泊可能。Wi Fi、コンセント、温泉、レストラン、自炊用キッチンと冷蔵庫、小さなキオスクまであり、滞在に必要な物は概ね全て揃っている。主食は芋と米、タンパク源は周辺で獲れる湖の魚や、チキン、アルパカであったが、節約と、より良質なものを食べるために、我々はクスコから牛ステーキやパスタ、野菜などを持参した。牛肉は1グラムあたり1円以下で購入できるので、日本よりも大分お得感がある。

車で40分ほど降れば、ティンキ村があり、そこには野菜や肉の市場があるので、なんでも手に入る。

行動概要

- 4/18 出国。成田→ニューヨーク→リマ→クスコ。
- 4/19~20 クスコにて食料、燃料の買い出し。
- 4/21 クスコを出発し、バスとタクシーでアウサンガテの玄関口の村パクチャンタ(4,300m)まで。村のホステルで泊。温泉、wifi、レストラン、キッチン付き。
- 4/22 村で馬を雇い北壁ベースキャンプのアズルコチャまで。なんとここにもホステルがあった。値段も高くなかったので泊まる。温泉、wifi、レストランはない。キッチン有。近くの丘(標高4,700m)に登って順応。
- 4/23 氷河手前までモレーン帯を歩き北壁を偵察。順応でノーマルルートを登るために一旦村まで下りる。
- 4/24 村からタクシーでアウサンガテを半周回って南側のノーマルルート入山口へ。
- 4/25~5/3 ノーマルルートにて順応、5/1に山頂。ノーマ



アウサンガテと温泉

ルとはいえあまり人は入っていないようで、それなりに急な氷雪壁。1年に0~4パーティーしか登頂しないようだ。ラッセルがあり疲れた。日程に余裕もあったので、6000mに3泊できた。

- 5/4 タクシーを乗り継いでクスコへ帰着。
- 5/5~8 クスコでレスト。各自観光など。
- 5/9 パクチャンタへ移動。
- 5/10 パクチャンタでボルダリング。レスト。
- 5/11~12 氷河を偵察し北壁基部まで荷揚げ。基部で岩と氷によって全ての落下物から守られた洞窟を見つけたのでここに登攀装備をデポし、村へ戻る。
- 5/13~15 パクチャンタにてレスト。
- 5/16 アズルコチャのホステルへ移動。
- 5/17~21 アウサンガテ北壁登攀。新ルートより登頂。ノーマルルートを下降し、バイクとバスとタクシーを乗り継いでパクチャンタ村へ帰還。
- 5/22~24 パクチャンタ村でレスト。アズルコチャのデポを回収。
- 5/25 クスコへ帰還。
- 5/26~28 レスト、他のエリアの偵察の準備。
- 5/29 ソライパンパへ移動。ホステル泊。
- 5/30~6/2 サルカンタイ(6,271m)南面及び東面の偵察。また、タカーウェイ東峰(5,700m)東面のトライに向かうが想像以上の岩の脆さに取り付きで引き返す。
- 6/3~4 クスコへ帰還、レスト。
- 6/5~6 クスコ地方の祭り、コイヨリッティを見に行く。標高5,000近くの山奥で4日間夜通し踊りまくる非常にエキサイティングな祭りだった。
- 6/7 クスコで観光。帰国準備。
- 6/8~10 帰国。クスコ~リマ~ロサンゼルス~成田。成田は米国入国に必要なESTA(ビザ免除プログラム)の期限が切れているのを忘れていて、あわや一人ペルーに取り残されるところだった(正確には取り残されたが、たまたま13時間後の便に空席ができたのでそれに乗って帰ってこられた)。

大阪府山岳連盟自然環境委員会のSDGsな活動

4年前より活動を休止していた自然環境委員会の活動を再開し、2年目の今期は研修会等を実施して本格的な活動を模索している。

大阪府の南東に聳える金剛山、大阪市内からもアクセスが良く、存分に四季を感じられる憩いの場として賑わっている。訪れる人は多く、東の高尾山と並び称される西日本を代表する人気登山スポットである。植林地帯ながら自然林も多く山頂部の落葉広葉樹林帯にはブナ林が広がり、春には谷筋に多くの花が咲き乱れる。固有種のドウキョウオサムシ、絶滅危惧種のギフチョウなどの生息域でもありアサギマダラの飛来に出会えるのも嬉しい。ゴジュウカラ、キビタキ、カッコウなど80種以上が生息する野鳥の楽園で、越冬地へ向かう猛禽類も羽を休める。山頂には役行者が開いたとされる転法輪寺、一言主を祭神とする葛木神社があり真言密教の霊場として日本7高山に数えられる。麓の千早城は楠木正成が躍動し鎌倉幕府軍を蹴散らした史跡で、数多く歴史も感じられ、この山域の魅力は尽きない。

人気の山故に登山者の嗜好も多岐にわたり、無数の「勝手道」が刻まれ自然環境への影響が危惧されている。一方、金剛山、大和葛城山の地質は花崗岩類の風化山積土で浸食されやすい特徴がある。ハイカーが登山靴で歩くだけでも洗堀、拡張、土壌の流出となり、浸食された道は豪雨時に水の侵入口となり激しい降水が続くと斜面崩落が多発すると警鐘されている。2023年6月にも大規模な崩落が発生した。行政や関係団体で構成する金剛山系安全対策連絡会では一般登山道以外の「勝手道」への誤侵入を防ぐための協議や減遭難、道迷いの防止などを行ない、啓発の看板設置などを進めている。山肌を守り貴重な植生保護、生物環境のための活動として推進して行きたい。

本年度の近畿地区自然保護連絡協議会ではシカの繁殖と森林生態系の影響について貴重な発表があり、大

阪北部にも悪影響が及んでいることが示された。山は移動を遮る境界線がなく登山者も動植物も自由に往来が出来るため、大阪府下に固執せずに近隣府県と連携した活動の協議を提案した。希少植物の保護、外来植物の駆除、近自然工法による登山道の補修などエリアを広げてみると課題は多い。個別に行なっていた自然観察会、清掃登山なども広域連携とすれば参加機会が増え、意識の向上になると考える。

大阪府の自然保護指導員は最盛期からは半減している。また高齢化も進んでおりメンバーの再構築も必要であるが、活動を進めるには諸先輩方の経験をお借りする必要がある。またクリーンハイクを継続してきた所属団体の好意に感謝し、今後は総力で実りある活動が出来ればと思う。

((一社)大阪府山岳連盟 自然環境委員長 田中昭男)



登山者により立木にペンキでマーカが記された勝手道の入り口



当協議会が設置した道迷い、事故への啓発のプレート



登山道の倒木除去作業中と作業後の状況

- 日 時：令和5年11月9日(木)
14:00 - 19:10
- 場 所：J S O Sビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長、蛭田・飛松・吉田・
山本各副会長、小野寺専務理事、古賀・
濱田・赤尾・町田・望月・各常務理事、佐藤・
前田・野村・小高・中橋・水村・山口・島田・
杉本・西谷・畑中・樋口・中島・小田部
各理事。以上25名。古屋、佐久間各監事。
以上2名
- 欠 席：安井・栗田常務理事、平田・
小日向理事

1. 開 会

2. 丸会長挨拶

U A A Aの30周年記念、ネパールNMA
50周年記念に参加し、J M S C Aとしての貢
献をアピールできた。本日も、よろしく願
いします。

3. 会議成立状況報告

理事数29名中25名出席(開会時)、監事
数2名中2名出席(定款第33条、定数=15
名(1/2超、決議は出席理事の過半数をも
って行う)。

4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。
ホストは小野寺専務理事が務めた。

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注. 審議順に記載)

公正証書について、古屋監事が以下の説
明をした。公務員が作る公文書に相当し、公
証人(裁判官、検事、国家公務員経験者)が
作るもの。私文書より、強い効力、権限を
持つ。具体的には、通常の私文書(例えば金
銭貸借契約書)では、借入金返済されない
ときに、裁判所に訴訟する必要があるが、公
正証書があれば、裁判を通さず強制執行が
可能である。

議案第1号 第9回(10月実施)理事会議事 録の承認について

質問は特になく、異議なく承認された。

議案第2号 令和5年度上半期事業報告、 決算について

小野寺専務理事が、配布資料を基に、中
間報告として取り組み状況の説明と、事業
内容の概要を説明した。スポーツクライミ
ングの競技結果、強化事業、その他各委員
会の活動をまとめていく。

赤尾事務局長が、配布済の上半期の貸借
対照表、正味財産増減計算書を基に状況説
明をした。今まで作成していた上半期の会
計基準と比べて、以下の変更がある。

貸借対照表

1. 特定資産の取り扱い

P C Aからの財務データをそのまま使用
しているため、特定資産 37,213,965円
を計上していない。

2. 協賛金の半期分(56,200,000)を、1年前 は前受けとしていた。

正味財産増減計算書

1. 収入は、概算払いが多く前年度実績と比
べ、8,000万円強多くなっている。
2. 大会増と、大会前倒しのため、大会施
設費用が、前年度より、5,992万円多
くなった。上記の結果、37,960,748円の黒
字となっている。

監査報告について、佐久間監事が配布資
料(上半期監事監査所見)をもとに説明した。

- 数値上は、3,700万円の黒字で、見かけ上
は大幅な増加となったが、協賛金を上半
期に全額組み入れたためなので、赤字体
質から脱却できていない。

- その後、スポーツクライミング部門、登山
部門、事務局、法人会計、ガバナンス・コ
ンプライアンスの観点、会計上の事項、山
岳共済会の状況を補足した。

上半期事業報告、決算、監査所見につ
いて採決を取り、以下の通り、異議なく承認
された。

賛成：25名、反対：0名、棄権：0名

議案第5号 補正予算について

濱田常務理事が、配布資料を基に説明し
た。収入を削ったが、支出削減がそれに追
いつかず、まだ、3,400万円の収支差(支出超
過)となっている。600万円の財政基盤確保
資金を使用すると、2,800万円の最終収支
見込である。結果的に正味財産期末残高は
マイナス2,000万円の予想となっている。さ
らに、以下の補足説明をした。

- 当初予算から支出が増えている委員会は、
収入も増えている事業。収支には、影響は
ない。

- 特定委員会毎に100%割り振る特定財源
はなく、満額は難しい。目安としては、約
80%が割り振られるとみていただきたい。

- 管理費は、いろいろな収益から負担しな
ければならない。

- 業務委託費用は管理費に計上されている
が、事業費に振り分けることも、今後検討
する。

当補正予算案について採決し、以下のよ
うに承認された。

賛成：24名、反対：0名、棄権：1名(古
賀常務理事)

議案第6号 B J C開催について

町田S C部長が、現状の進捗状況の説明
をした。収支見込は、当初J M S C A支出が
3,200万円だったが、その後、持ち出し2,
800万円、助成金の収入等で、J M S C A 1,
800万円持ち出しまでに圧縮したが、B J C
割り当て予定の1,300万円と、まだ500万円
の差がある。

キャッシュフロー改善のために、業者へ
の支払いを4月以降に延ばすように依頼す
ることも考えている。

行政の補助金については、守秘義務があ
るので、外部に漏らさないようにしてほしい
旨伝達された。

議案第7号 正会員の承認について

小野寺専務が配布資料を基に説明し、高
体連正会員として前田氏が退任し、松尾浩
志氏に変更する件について、異議なく承認
された。

賛成：25名、反対：0名、棄権：0名

議案第8号 基金設置と定款の変更につ いて

望月常務理事が配布資料を基に、定款の
変更内容の説明をした。

常任委員、専門委員の承認については組
織運営管理規程の変更も視野に入れて考え
る。以下のように承認された。

賛成：25名、反対：0名、棄権：0名

議案第9号 各岳連推薦年間功労者表彰 について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明
した。毎年行っていることだがそのまま進め
てよいかどうか諮り、異議なく承認された。

議案第10号 山岳スキー提案について

小田部理事が、配布済資料を基に、今後
の展開事業の説明をした。

- 山岳スキーからS K I M O委員会に名称
変更。

- 諸々の事業の収支は、補正予算に反映済。

- J O C, J S Cへの提出事業計画と今回予
定している事業金額の確認を、事務局の
担当者と一緒にやる。その後、支出につ
いて、選手が遠征費負担の場合のガイドラ
インや基準を明確にした方が良いのでは

寄贈図書

(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第22417号	新 聞
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 548	会 報
(株)山と渓谷社	「ROCK & SN OW」102 winter issue dec.2023	情 報 誌
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第369号	会 報
一等三角点研究会	「聳嶺」新世紀第十六号	会 報
(一社)栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	「創立75周年記念誌」	会 報
Corean Alpine Club	「山(山)」2023年10月号 Vol.281号	会 報
株式会社ネイチャアエンタープライズ	「岳人」2024 January No.919	情 報 誌
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2418号	新 聞
(株)山と渓谷社	「山と渓谷」2024 1月号 No.1072	情 報 誌
(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」特別号、「JSPOフェアプレー」特別号、「JSPOスポーツ」医・科学info」	会 報
(公社)日本山岳会	「山岳第118年」のご送付について	会 報
(一社)埼玉県山岳・スポーツクライミング協会	「SMSCA news」No.80、SMSCA CALENDER2024	会 報
(公財)全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」Vol.46	会 報
(株)山と渓谷社	「日本山岳遺産基金通信」No.021	会 報
大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.147号	会 報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」	新 聞
トータル・オリンピック・レディース会	TOLだより 2023	会 報
日本山岳写真協会 JAPA	「日本山岳写真協会ニュース」12月号 第508号	会 報
三峰会 東京都岳連	「岩つばめ」No.372	会 報
常北山水会山岳部	「山水」第49号	会 報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1126	会 報
長野県山岳協会	「やまなみ」No.251	会 報
(一財)日本防火・防火協会	「地域防災」No.53	会 報
日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.507	会 報
(一財)日本スポーツマンクラブ財団	「日本スポーツマンクラブ財団会報」第176号	会 報

ないかという意見が出た。

賛成：24名、反対：0名、
棄権：0名(前田理事離席)

議案第11号 組織運営管理規程の変更について

古賀常務理事が、配布済資料を基に、組織運営管理規程の変更(東京五輪推進室を削除して、加盟団体振興推進プロジェクトに変える)提案をした後、以下の意見が出た。

- ・SC指導委員会、UIAA委員会等、一部の委員会が抜けていたり、分掌がおかしいところがある。
- ・改称は対外的なこともあるので、速やかに変更し、その後、都度変更を行う方法で対応してはどうか。
- ・加盟団体推進PTとSKIMO(改称)は、早急に変更する。
- ・今後は、期限を決めて、まとめて変更するなど事務局がやりやすい方法で修正をしてはどうかという意見がでた。

賛成：24名、反対：0名、

棄権：0名(前田理事離席)

議案第3号 臨時総会について

小野寺専務理事から議事次第(案)の説明があり、その後赤字検証委員会提言に対してのアクション案について、以下のとりまとめ責任者が、事前配布資料を基に、対策及び、実施時期案の説明をした。

- 1-1. 収支相償原則を前提とした事業運営の履行及び、収支の徹底管理：町田SC部長、古賀登山部長
 - 1-2. 規律違反の疑義ある対象者の責任者に関して調査を検討：山口理事
 2. 常務理事会、理事会の改善：丸会長とりまとめ待ち
 3. 再教育の実施：山口理事
 4. あらゆる収入調達手段の実行について：蛭田副会長
 5. 事務局・委員会における管理強化：小野寺専務理事
- その後以下の質疑応答と、意見が出た。
- 4. は、日山協山岳共済会(1,000円)との棲み分けを明確にした方がよい。

— JMSCA フレンド関係の岳連へのリターンについては、特に異論がなかったため、今提案内容で総会に提案する。

— 臨時総会について、複数岳連から申し入れや様々な意見が出てくるのが予想されるので、事前に準備して、慎重に対応していく。

— 2. 常務理事会、理事会の改善は、早急にまとめてほしい。
(後日、蛭田副会長がとりまとめることになった。)

臨時総会の資料は、実施時期がきまっていないものは、その旨明記したうえで、案内と資料を送付することを前提に、以下のよう承認された。

賛成：23名、反対：0名、
棄権：1名(赤尾事務局長)(山口理事離席)

議案第4号 金銭貸借契約書及び保証人について

前回の臨時常務理事会(11/1開催)で、以下の条件付きで、連帯保証人6名が合意した。

1. 11月末から5月末の借入期間であること。
2. 協賛金の入金があれば、優先的に返済の原資として使用する。
3. 現行締結済書面をいったん破棄の上、契約時には、複数理事(監事を含む)の参加の上行う。

なお、上記連帯保証人以外で、連帯保証人をしてよいと考える理事は別途報告する。11/12、T氏に打ち合わせの申し入れをし、その意向に応じて対応する。

上記内容で、採決を取り異議なく承認された。(山口理事離席)

7. 報告

小野寺専務理事が、上記について配布資料を見ておくように伝達した。

- 報告第1号 月次報告について
報告第2号 国体感謝状について
報告第3号 国体規程類の変更について
報告第4号 新春懇談会、日本山岳グランプリについて
報告第5号 令和6年度予算編成方針案

報告第6号 指導委員会SCコーチ1認定承認について

報告第7号 山岳共済会上半期事業・決算報告について

報告第8号 SKIMO報告

報告第10号 副会長会報告について

報告第11号 役員派遣について

報告第9号のJBS(JMSCA Business School)事業について、西谷理事が、配布済資料を基に説明した。昨年の反省(実際の就職につなげるまでには至らず)を踏まえ、今期は、講義内容を改善した。赤尾事務局長が、当該事業はJSC組織基盤強化資金によりJMSCAの負担なしで対応できることを補足した。

8. その他

副会長連絡会議は、マーケティング関係の打ち合わせを中心にしているが、以下のような要望がでた。

- SC関係の情報も共有してほしい。
 - 博報堂DYとの契約内容を共有してほしい。
- 事務局から、後日配布する(11月10日メール送信済)。
- JMSCAの事業以外については副会長報告では触れないようにする。

以上

令和5年11月9日 記録 赤尾 浩一

〈お詫びと訂正〉

「登山月報」No657号掲載で以下の誤りがありました。関係者の方々に深くお詫びするとともに、ここに訂正致します。

1. 「第1回アルパインクライミング懇談会」の記事の中で、「アウサンガテも、ガンバル・ゾムも鈴木雄大氏が見つけてきた」との記述がありましたが、正しくは「北杜市のパーミヤンに2人(鈴木雄大氏と成田啓氏)が集まり、開店から閉店まで、Google Earthやネット上の写真と眺めっこして、出てきたのがアウサンガテ北壁でした」とした。
2. 寄贈図書中に、「明治大学山岳部 炉返会」、「炉返通信」と記述がありますが、正しくは「明治大学山岳部 炉辺会」、「炉辺通信」とした。

日山協山岳共済会に加入すると数々の特典が得られます。

入会費無料 年会費**1,000円** (18歳未満は500円です。)

(日山協山岳共済会の会員の方は保険料が約46%割引の山岳保険に加入できます)

※山岳スポーツ活動とは、登山のほか、スキー、スノーボー、スノーシュー、ホルダーなども含みます。



日山協山岳共済会保険には4つのコース

- ①ハイキングコース ②登山コース ③トレランコース ④スポーツクライミングコース

詳しくは山岳共済会のホームページをご覧ください。

※山岳保険等には、保険業法で認める保険と遭難の費用だけが出る共済があります。あなたの山岳保険は怪我や入院等に対応していますか？

- 傷害死亡・後遺障害 遭難捜索費用 救援者費用
 傷害入院 傷害通院 傷害手術 日常生活賠償

日山協山岳共済会会員になるには

下記からお問い合わせください。

日山協山岳共済会
事務センター

170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 / FAX: 03-5958-3397
受付時間 月～金 10:00-17:00(祝日を除く)
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp



携帯からも資料請求ができます。

<https://sangakukyousai.jp>



かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

多くの岳人を魅了してきた谷川岳。画像は山頂直下の肩の小屋から右手奥に平標山へ至る主脈縦走路を見通す場所。四季を通じて魅力ある山岳だが、特に好天の積雪期はロープウェイを利用したアクセスで、比較的容易に上越県境の素晴らしい景観を見ることができると訪れていたきたい。

左手のピークは明治期まで、ここが本来谷川岳と呼ばれていた俎窟(まないたぐら)である。

(一社)群馬県山岳・スポーツクライミング連盟 理事(高崎山岳会) 清水知樹

編集後記

新年あけましておめでとうございます。2024年はパリオリンピックがフランスで開催されます。スポーツクライミングが正式種目となりました。今年もスポーツクライミングが盛り上がる年になりそうですね。

そして、UIAA公認の「上級夏山リーダー」養成講習会が12月に開催されました。山岳会に入らない人も増えているので、登山リーダーとしてのスキル向上を学べる機会がある事は、学びたい人にとって良い事だと思います。しかもUIAA公認。今度受けてみようかな!

(松本光顕)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
北丹沢山岳センター内

URL: <https://trailrunning.or.jp/>

※現在、非常勤の為電話番号は非公開とさせていただきます

登山月報 第658号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
(毎月1回15日発行)

発行日 令和6年1月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

2月号
発売中

【特集】 日本人とヒマラヤ

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには
モンベルポイント **5,000P**プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人コンパクト
フォーム
パッド

手軽に携行できる
軽量コンパクトな
パッドです。

限定
デザイン

岳人
カード

全国2,000ヶ所以上で
ご優待!

全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

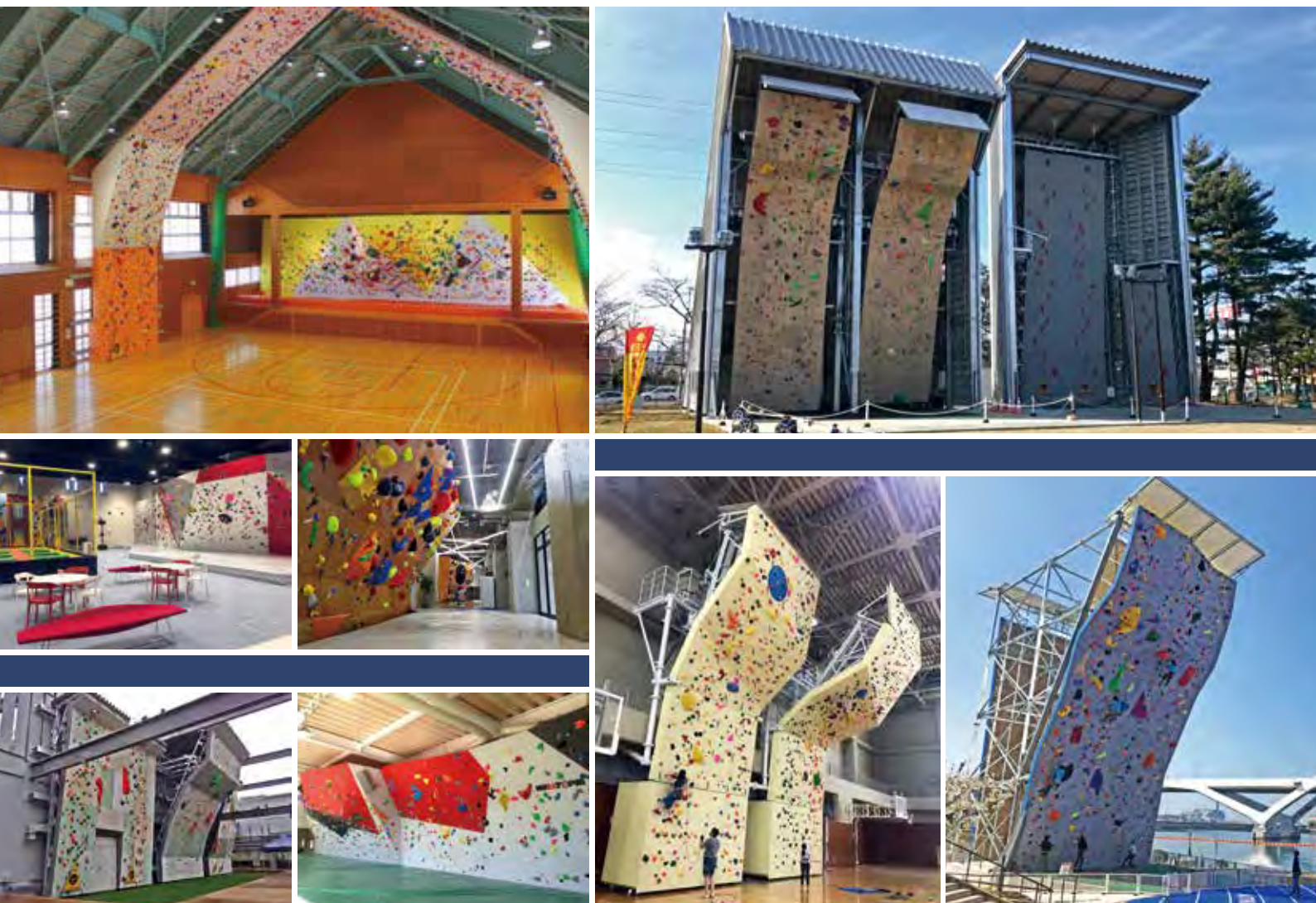
持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

